

# 安全報告書

平成19年度



岩手開発鉄道株式会社

## 1 経営責任者からのメッセージ

### 輸送の安全確保として

弊社は、安全第一をモットーに輸送の安全・安心を実現するために管理方針を定め活動するとともに、関連法規などコンプライアンスの徹底に努めております。

前年度におきましては、踏切無警報防止装置新設、落石防護柵設置、落石防護網設置、監視カメラ設置などの安全対策を進めてまいりました。また、KYの徹底及びヒヤリ・ハットの把握運動を通し安全の先取り、安全意識の高揚を図った結果、無事故運転・無災害を達成することが出来ました。

今年度においても、安全を第一にリスク管理、コンプライアンスの徹底を図るとともに、運輸安全マネジメントを推進し一層の安全・安心輸送を目指しております。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、輸送の安全確保のための取り組みや安全管理体制の実態について、自ら振り返るとともに広くご理解いただくために公表するものであります。

皆様からの声を輸送の安全・安心に役立てたく、是非、積極的なご意見を頂ければ幸いに存じます。

岩手開発鉄道株式会社  
代表取締役社長 上野 晋吾

## 2 輸送の安全確保に関する基本的な考え方と目標

鉄道事業法など関係法令並びに輸送の安全を確保するために社内で定めた安全管理規程及び基準を遵守し、輸送の安全の水準の維持及び向上を図ることとしております。

安全に係る行動規範は、安全綱領に定める次の通りとする。

- 安全の確保は、輸送の生命である。
- 規程の遵守は、安全の基礎である。
- 執務の厳正は、安全の要件である。
- 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全適切な処置をとる。
- 情報は漏れなく迅速に、正確に伝え、透明性を確保する。
- 常に安全意識を持ち、必要な変革に挑戦する。

## 3 安全方針

法令の遵守と安全運行の確保

安全性向上の継続的活動の実践

### 安全目標

#### 岩手開発鉄道株式会社安全目標

区 分	項 目	内 容
定量的目標	列車事故	責任事故ゼロ。
	人身障害事故	責任事故ゼロ。
	踏切事故	責任事故ゼロ。
定性的目標	トップによる各職場巡視	各職場への隔月点呼出席 各職場の業務研究会への参加 列車添乗
	ヒヤリ・ハットへの取組み 危険予知活動への取組み QC活動への取組み リスクアセスメントへの取組み	5年目の活動推進中 5年目の活動推進中 19年度復活取組み(年一回発表) 19年度より取組み

#### 4 輸送の安全の実態

##### (1) 鉄道運転事故

平成19年度は、鉄道運転事故は発生しておりません。

##### (2) 災害

平成19年度は、重大な災害は発生しておりません。

##### (3) インシデント

平成19年度は、インシデントは発生しておりません。

#### 5 輸送障害

平成19年度に発生した障害等の件数及び遅延時間等は下記の通りです。

障 害 等	件数	遅延時間
自然災害	6 件	66 分
設備の故障等	5 件	170 分
車両故障	3 件	14 分
合 計	14 件	250 分

#### 6 輸送障害

平成19年度は、行政指導はありませんでした。

## 7 安全確保のための取組み

### (1) 安全重点施策のための取組み

#### 関係法令の理解と安全意識の徹底

月一度の業務研究会にて学習会を実施し、安全度の向上を目指しております。

#### 事故等に関するリスク情報の活用

運輸局送信の情報等を横展開し、各グループで無事故無災害に向けて活用を行っております。

#### 安全行動規範の確実な実行

コンプライアンスの理解と確実な取組みを実行しております。

#### 計画に基づいた指導訓練の実施

年間計画表を基本に取組み実施を行っております。

#### 指差喚呼の徹底

若年層、中途採用者への基本教育を実施しております。

### (2) 設備対策

#### イ．列車事故防止について

岩手開発鉄道では、列車安全運行のためにATS（自動列車停止装置）を装備しています。また、速度超過防止用ATSも装備しております。最終駅である岩手石橋駅構内においては、折返線（スイッチバック）への退行運転時の安全確認のために監視カメラを2台装備し事故防止に役立てております。

#### ロ．踏切事故防止について

当社においては、第一種、第三種、第四種の三種類の踏切道がありますが、リスクの高い所は、第一種と踏切バックアップ装置が装備してあります。平成19年度は、第一種への格上げを一箇所実施しております。沿線住民への啓蒙活動では、踏切事故防止のチラシ配布を実施し事故防止に努めております。

#### ハ．車両管理・施設保守について

作業前ミーティングではKY活動を実施して事故防止に努め、終業点呼時にはヒヤリ・ハット報告をし、相互注意で無事故・無災害の高揚に努めております。また、平成19年度よりリスクアセスメントを導入し、作業標準書の見直しを図っております。

## 二．平成19年度取組み実績

計 画	実 績	達成度
落石防護柵設置（50m）	終了	
落石防護網設置（35m×20m）	終了	
踏切遮断機塗装修繕工事（2箇所）	終了	
踏切遮断機新設工事（1箇所）	終了	

## ホ．平成19年度安全対策のための投資及び費用

項 目	金 額（千円）
安全関連設備投資	8,442
施設・車両の修繕費	15,273
人材教育・研修費用	510
合 計	24,225

## 8 安全対策の実施状況

### 人材対策

#### （1）岩手開発鉄道株式会社

輸送の安全確保のため、当社では部門ごとに課題を設けて人材育成を実施しております。

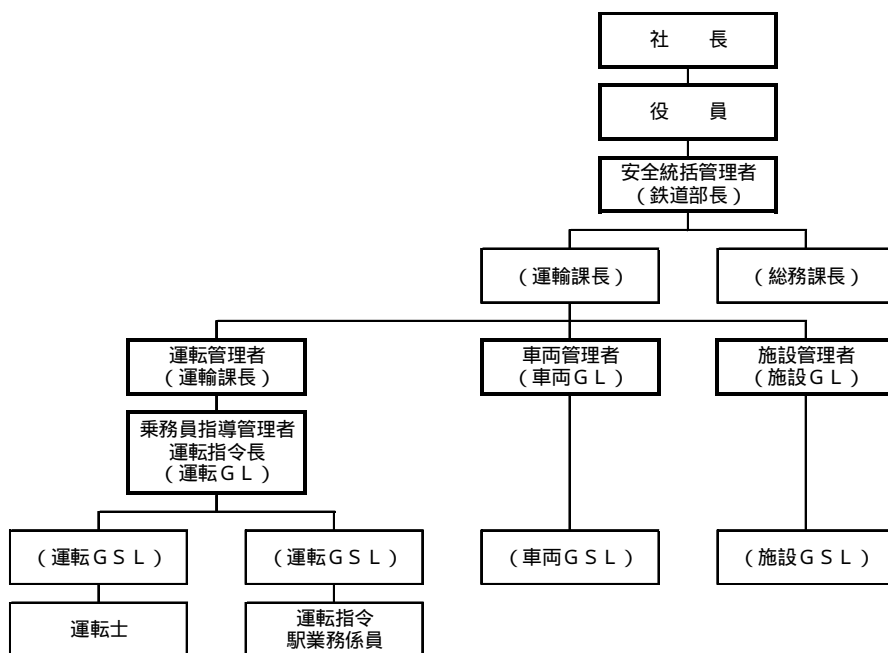
運 転 士	平成19年度は2名を養成し、現在は運転士として活躍中です。 20年度においても2名の養成を予定しております。
駅 務	若年層へ移行しつつ、経験豊富なベテラン職員や安全・教育担当者の指導を仰ぎながら教育指導中です。
車両整備	若年層へ移行しつつ、経験豊富なベテラン職員や職場上長等による技術技能の継承に努めております。
施設保守	若年層へ移行しつつ、安全・教育担当者等の指導による技術技能の継承に努めております。

## 9 安全管理体制と方法

### 安全管理体制

#### (1) 安全管理組織

わが社では、社長をトップとする安全管理組織を構築・運用しております。この組織の中で、安全統括管理者、運転管理者、乗務員指導管理者が、それぞれの責務を明確にした上で、安全確保のための役割を担っております。



GL = グループリーダー、GSL = グループサブリーダー

#### (2) 各管理者の責務

各管理者の輸送の安全に係る責務は次の通りです。

役 職	役 割
社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
鉄道部長 (安全統括管理者)	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運輸課長 (運転管理者)	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
総務課長	輸送の安全の確保に必要な財務に関する事項を統括する。
運転グループリーダー (乗務員指導管理者)	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
施設グループリーダー (施設管理者)	安全統括管理者の指揮の下、軌道施設に関する事項を統括する。
車両グループリーダー (車両管理者)	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。

( 3 ) 安全管理方法

イ . トップによる現場視察

社長及び安全統括管理者は定期的 ( 月一回 ) に現場を巡視し、職員との意見交換を通じて、安全管理状況の把握を行っております。

ロ . 安全衛生委員会

社長、部長、課長、組合執行部が委員となり月一回開催しております。ヒヤリ・ハット、輸送障害、自然災害、車両故障、踏切障害、信号故障等の原因調査と再発防止に反映させております。

ハ . 緊急時対応

鉄道運転事故及び自然災害及びその恐れがあると判断した場合、都度緊急対応・復旧対策及び事故の予防にあたります。

( 4 ) 安全衛生パトロール

年 7 回、社長、部長、課長、組合執行部などによる職場、施設等の巡視パトロールを実施し改善を図っております。

( 5 ) 各グループにおいて、月一度の月例点検 ( 機械設備等の定期点検 )、業務研究会を開催し日常の懸案事項 ( ヒヤリ・ハット等 ) についての討議や学習会等を開催し、安全レベル向上に役立てております。業務研究会にはトップも参加しております ( 年四回 ) 。



10 安全に関する現場等における取組み

当社においては、月一回の月例点検と業務研究会の開催で設備機器の点検、日常における問題点、学習会等を実施しております。社長、部長、課長、安全・教育担当者も参加し（一度に二名程度参加）、ボトムアップ、トップダウンなど意見集約に努めて、月に一度開催される部課長リーダー会議又は安全衛生委員会において方向性を打ち出しております。

また、鉄道事業の安全確保については、安全マネジメント体制の構築、コンプライアンスの徹底などの推進を図っております。

運転士においては、一人KY活動の実践と点呼時のアルコールチェッカーによるチェックの実施、車両整備、施設保守、駅勤務者においても作業前ミーティングでKY活動を実践し無事故無災害に努めております。

(1) KYシート

<b>危険予知活動表</b>				会社名	岩手開発鉄道株式会社	
				所 属	課 グループ	
月 日 ( )			安全作業責任者		作業員数	人
確認事項	健康状態	保護具	服 装	有資格者	作業標準書	
	良・否	良・否	良・否	良・否	有(読合せ)・無	
作業内容						
ど ん 潜 な ん で 危 険 い る か						
だ か ら ワ ン ポ イ ン ト は イ ン コ ウ ト す る						
	ワンポイント	ヨシ!				
指示連絡事項						

1日の反省（終業点呼時実施）

整理整頓の良否	どんな相互注意をしたか	作業手順に問題は無かったか (無・有 項目記述)
良・否		
ヒヤリ・ハットの報告		

作業員 サイン (自筆)					

( 2 ) 安全作業標準書

安全作業標準書		会社名	岩手開発鉄道(株)車両G	安全管理者	印
作業名	旋盤取扱作業		年月日	平成20年5月28日(改訂)	グループリーダー 印
単位作業	作業手順		安全上の注意		
作業確認	1	作業前点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主電源OFF確認</li> <li>・各部注油確認</li> <li>・各作業の点検</li> </ul>		
	2	試運転	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電源を投入しSWをON、OFFしながら行う</li> <li>・各自動送りロック解除確認</li> <li>・低速回転での確認</li> <li>・潤滑状態確認</li> <li>・異常箇所時電源OFF確認</li> </ul>		
作業	1	工作物の取付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刃物送り台を充分逃がして行う</li> <li>・SW、OFF確認</li> <li>・ギアロック解除確認</li> <li>・芯だし作業・バイト選定取付け</li> </ul>		
	2	切削作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主軸の回転数確認</li> <li>・ギアロック確認</li> <li>・はじめはバイト短く出して使用し、刃先はセンターの高さに調整</li> <li>・本切削の前に軽く試切削を行い芯や締付具合を確認</li> </ul>		
終了	1	各自動送り解除の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SW、OFF確認</li> </ul>		
	2	仕上げ寸法を確認			
	3	工作物を取外す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重量物は吊り具を使い、手の挟まれや足への落下に注意</li> </ul>		
	4	芯出し台、往復台を右に寄せ4Sを行う。			
潜在危険			対策		
1) 袖口が回転部に巻き込まれる			<ul style="list-style-type: none"> <li>・袖口をキチンと締め、皮手袋を使用</li> <li>・軍手での作業を禁止</li> </ul>		
2) 工作物の芯出しや取付けを甘くすると、振れたり外れて飛散する			<ul style="list-style-type: none"> <li>・芯出しは確実に、取付けはしっかり行う</li> </ul>		
3) 切粉が飛散し、顔や眼に刺さる			<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護眼鏡を着用し必要に応じて飛散防止を工夫し、取付ける。</li> </ul>		
使用保護具			使用器具・工具		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護眼鏡</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各取付具</li> <li>・トースカン</li> <li>・ノギス</li> <li>・ダイヤルゲージ</li> <li>・小ハンマー</li> <li>・治具(挟み物)</li> </ul>		

## 11 緊急時対応訓練

この訓練は、毎年「安全運転強調運動」の中で、運休日を活用して全員参加で行う事故想定訓練になります。事故発生時の関係箇所への連絡通報、負傷者の救護、復旧作業等の迅速な対応等の習熟を目的としています。

平成20年度は、現地対策本部も設営し対策本部員の訓練も兼ねて行いました。



## 12 安全研究

当社において、次世代への技術・技能の継承の観点から、安全・教育担当者が中心となり無事故無災害に向けて教育訓練等を実施しております。

内容においては、K Y活動、Q C活動、リスクアセスメントなどを導入し、安全・安心へ向けて活動しております。



## 13 住民の皆様、関係者との連携

### (1) 住民の皆様からの声

当社は、貨物専用鉄道で、積荷の鉱山会社から荷卸のセメント会社まで地域に密着した鉄道です。

踏切事故防止啓蒙活動では、踏切事故防止のチラシ配布や列車妨害防止グッズの配布及び騒音測定等を実施し地域の皆さまににご迷惑をお掛けしないように日々努力をしておりますが、ご意見、お気づき等ございましたら遠慮なくご連絡を頂ければ幸いです。

### (2) 住民の皆さまへの要望

当社において、11.5kmの営業キロ程から見ますと、踏切度数が多く、各種運転展開時は踏切事故防止のチラシ、グッズ配布などを実施し事故防止へのご理解ご協力を呼びかけております。また、沿線小学校4校にも啓蒙活動を実施しております。

お陰様をもちまして、ここ数年は踏切事故ゼロで推移しておりますし、今後におかれましても、地域の皆様方の深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

14 ご意見・ご要望は下記までお寄せ下さい

お客様ご案内窓口

岩手開発鉄道株式会社 地域住民ご案内窓口	
TEL 0192-26-3127	FAX 0192-25-0666
e-mail <a href="mailto:info@kaihatsu-railway.co.jp">info@kaihatsu-railway.co.jp</a>	
月曜日～金曜日 8:00～17:00 (お盆・年末年始を除く)	